

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが最大で46細胞/mL、ケラチウム属が最大で2細胞/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最大で0.02細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が最大で0.01細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、魚類に対して有害とされるコクロディニウム・ポリクリコイデスが藻津で0.08細胞/mL、小筑紫中央で0.18細胞/mL、栄喜奥で1.46細胞/mL、青瀬山で3.54細胞/mL、ヒロウラで0.16細胞/mL確認されました。また、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムが栄喜奥で0.32細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が藻津で0.01細胞/mL確認されました。

コクロディニウム・ポリクリコイデスは10 cells/mL（注意基準）を上回っています。今後、本種はさらに増殖する可能性があり、漁業被害の発生が懸念される100 cells/mL（警戒基準）に達する恐れがありますので、十分注意してください。

またアレキサンドリウム属、ギムノディニウム・カテナータムおよびディノフィシス属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁指  
 導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	ケラチウム 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
A 藻津 (-/37m) 【09:10】	0	20.4	34.2	7.1	0	0.02	0	0
	2	20.5	34.2	7.1	2	0	0	0
	5	20.5	34.3	7.1	0	0	0	0
	★ 10	20.4	34.4	6.8	0	0	0	0
	15	20.3	34.4	6.6	-	-	-	-
	20	20.3	34.4	6.6	-	-	-	-
B 大島中央 (-/33.1m) 【09:20】	0	20.3	34.1	6.8	0	0	0	0
	5	20.4	34.3	6.7	0	0	0	0
	★ 10	20.5	34.5	7.0	0	0	0	0
	15	20.3	34.4	6.8	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/49m) 【09:28】	0	20.7	34.5	6.8	0	0	0	0
	5	20.7	34.5	6.8	0	0	0	0
	★ 10	20.6	34.5	6.8	0	0	0	0
	15	20.4	34.5	6.9	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/11.5m) 【09:51】	0	20.1	33.9	7.8	0	0	0	0
	★ 3	20.2	34.2	7.8	0	0	0	0
	5	20.4	34.2	7.6	0	18	0	0
	10	20.3	34.3	7.5	0	0	0	0
E ヒロウラ (-/25.6m) 【10:17】	0	20.5	33.9	7.0	0	0	0.02	0
	2	20.8	34.4	6.9	0	0.06	0	0
	5	20.9	34.4	7.1	0	0.18	0	0.01
	★ 10	20.2	34.4	7.0	0	8	0	0
	15	20.0	34.5	6.8	-	-	-	-
	20	19.5	34.5	6.8	-	-	-	-

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ケラチウム	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム	ディノフィシス
	(m)	(°C)		(mg/L)	属		属	属
F 青瀬山 (-/16.4m) 【10:00】	0	20.0	33.0	7.8	0	0	0	0
	★ 3	20.4	34.1	8.0	0	16	0	0
	5	20.3	34.1	7.7	0	46	0	0
	10	20.3	34.3	7.5	0	0	0	0
	15	20.0	34.5	6.8	-	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

貝毒原因プランクトンのモニタリングのため、藻津及びヒロウラの0m、2m、5mの深度から採水した海水の濃縮検鏡を実施しています。

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。

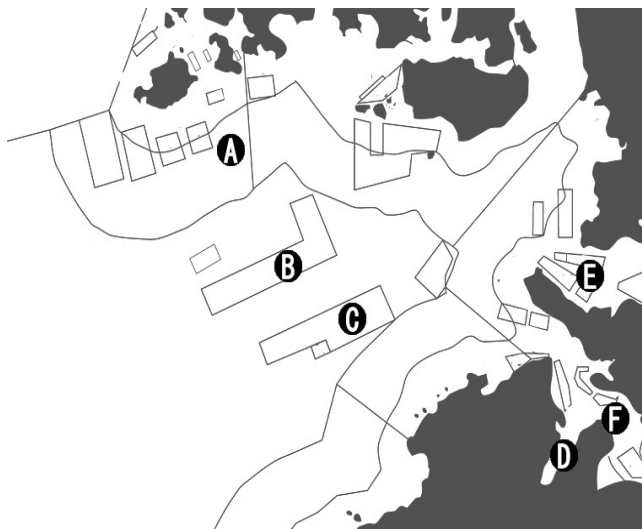
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
ケラチウム属	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—	—
コクロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	3～5月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津

D: 栄喜奥

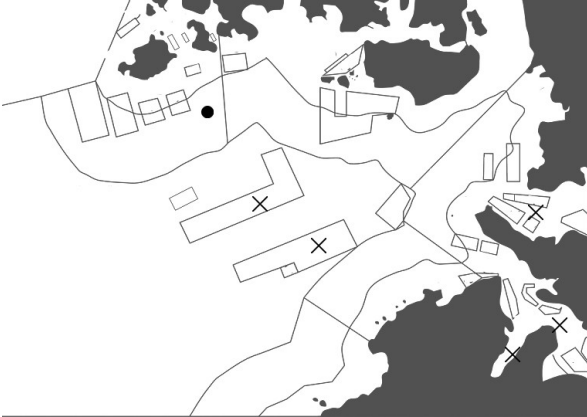
B: 大島中央

E: ヒロウラ

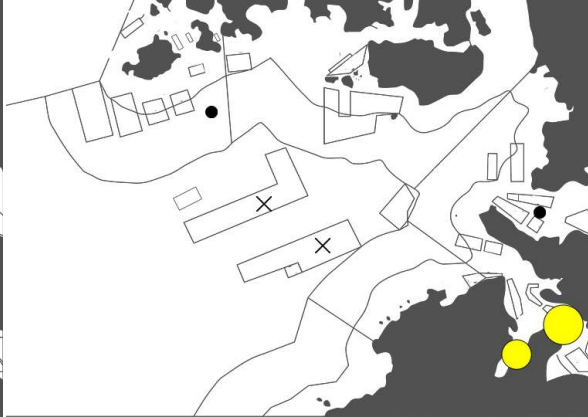
C: 小筑紫中央

F: 青瀬山

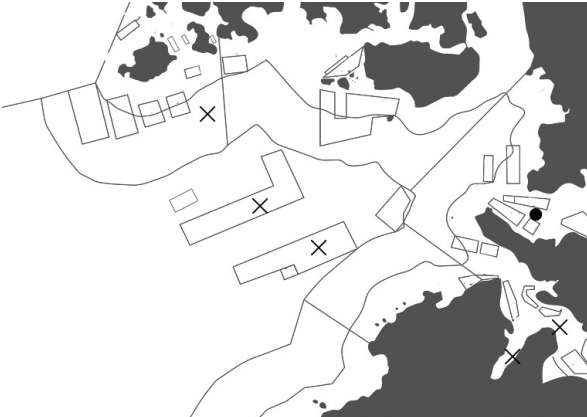
ケラチウム属  
最大細胞密度



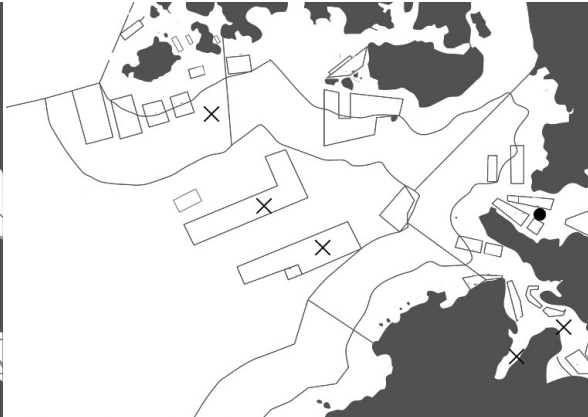
コクロディニウム・ポリクリコイデス  
最大細胞密度



アレキサンドリウム属  
最大細胞密度



ディノフィシス属  
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ  
円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色  
黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。  
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

